

白馬村特定居住促進計画

令和7年7月10日策定

自治体名	長野県白馬村	計画期間	令和7年度 ~ 令和11年度
------	--------	------	----------------

1. 特定居住促進区域（北城地区）

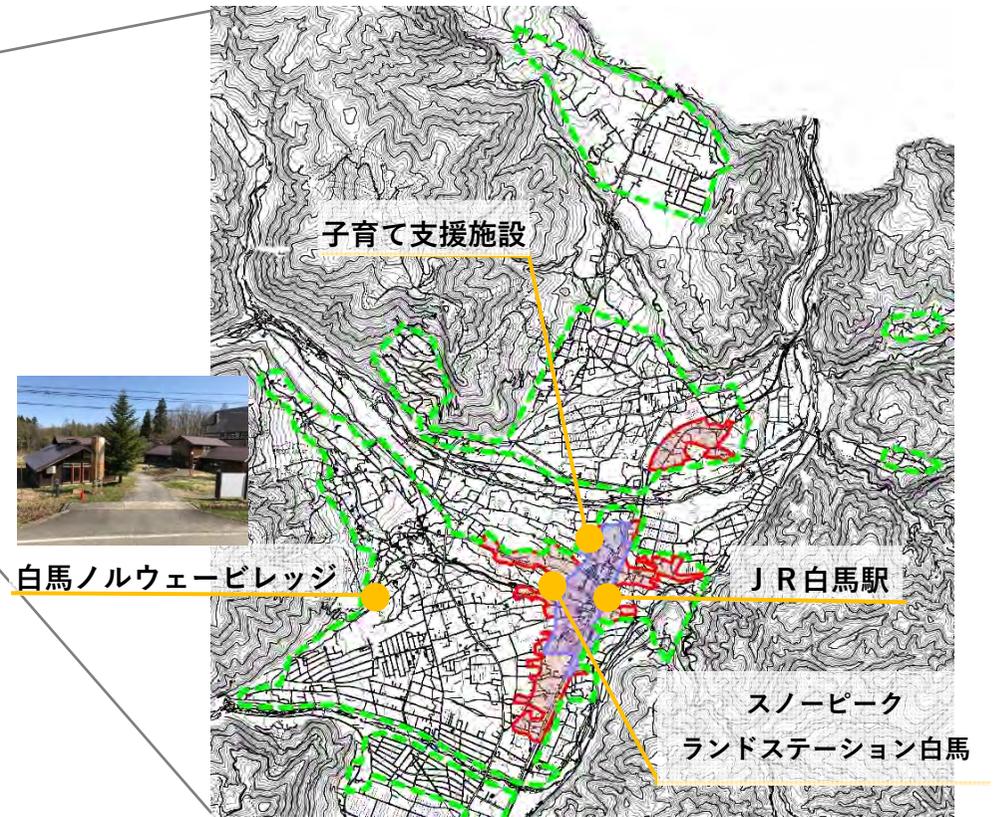
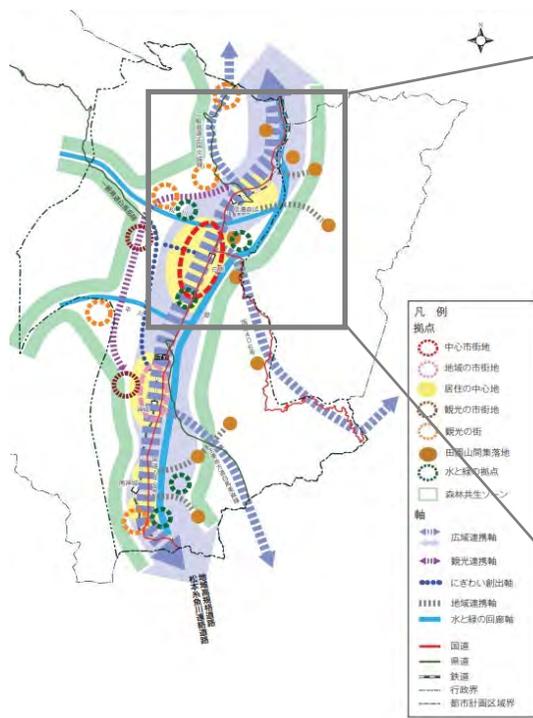
凡例

	特定居住 促進区域		居住誘導 区域		都市機能 誘導区域
-------------------------------------------------------------------------------------	--------------	-------------------------------------------------------------------------------------	------------	-------------------------------------------------------------------------------------	--------------

白馬村位置図



都市計画マスタープラン
将来都市構造図



1. 特定居住促進区域 (神城地区)

凡例

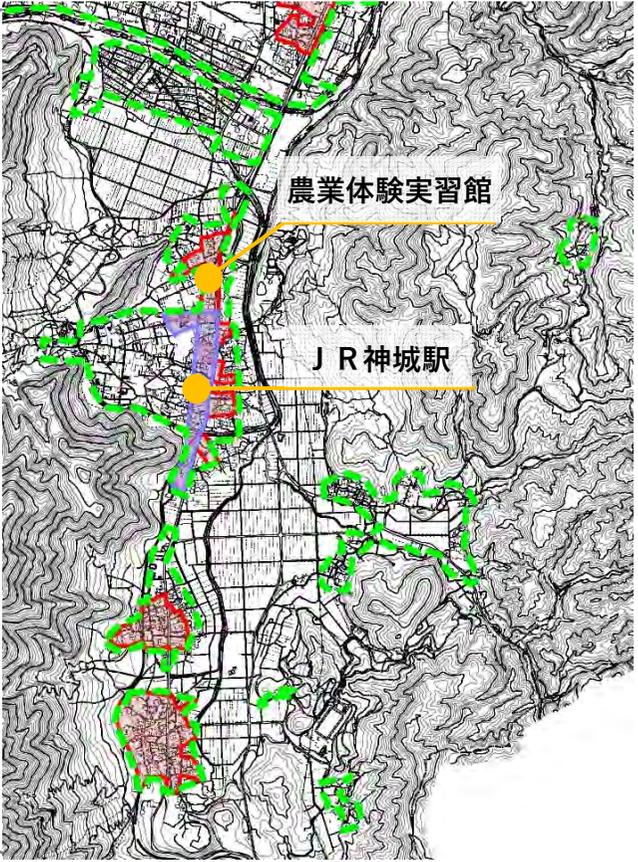
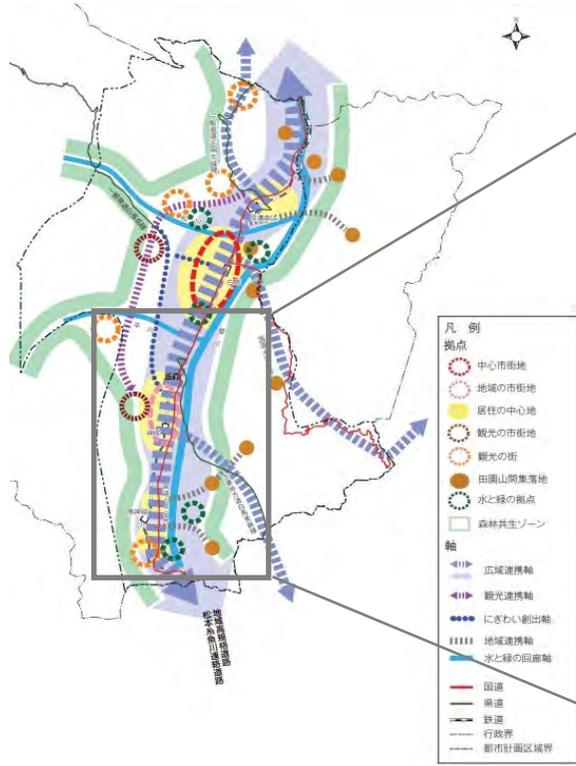
	特定居住 促進区域		居住誘導 区域		都市機能 誘導区域
-------------------------------------------------------------------------------------	--------------	-------------------------------------------------------------------------------------	------------	-------------------------------------------------------------------------------------	--------------

白馬村位置図



都市計画マスタープラン

将来都市構造図



2. 特定居住の促進に関する基本的な方針

(1) 基本方針

【白馬村の概要】

白馬村は、長野県の北西部、3,000m級の北アルプスの麓に位置し、豊かな自然環境と雄大な山岳景観を有している。

登山とスキーを中心とした観光業で発展し、1998年長野冬季オリンピック・パラリンピックによりその名が世界に知られることになった。

インターネットやSNSの普及も相まって、豊富で良質なパウダースノーを目当てに国内外から多くの観光客や移住者が訪れるようになり、多様なコミュニティが形成されている。

村の基本理念を「白馬の豊かさとは何か - 多様であることから交流し学びあい成長する村」と定め、地域で生まれ育った人、国内外から移住してきた人、二地域居住者や地域のファン、観光客など多様な人々の交流を地域づくりの重要テーマに位置付けている。

【白馬村の課題】

農村集落の歴史・文化も残っており、旧来の地縁によるコミュニティも根強く残っているが、人口減少や高齢化、加入率の低下等により担い手が不足し、伝統行事や環境保全活動の存続が危ぶまれている。

また、訪日観光客の増加等により主幹産業である観光業を中心に産業が活性化し、様々な業種に波及しているものの、多くの業種で人材不足が深刻化している。さらに、既存住宅が民泊施設等に転用される事例もあり、移住者や二地域居住者を受け入れる住宅が不足している状況である。

【本計画の趣旨】

本計画では、遊休宿泊施設をシェアハウスに転換するなど住まいを確保するとともに、地元企業の求人と地域コミュニティにおける担い手不足を補う役割を併せて発信・募集することで、地域課題でもあり、二地域居住の課題にもなっている「住まい」、「なりわい」、「コミュニティ」について包括的な取り組みを展開する。それらの情報を一元的に管理・発信することで、定住の前段階として二地域居住者を積極的に受け入れ、産業の人材不足、地域コミュニティの担い手不足を解消し、最終的には定住者の増加につなげ、持続可能な地域を実現する。

(2) 目標

指標1 地元企業の二地域居住採用者：50名（計画期間中の累計）

指標2 地元企業で二地域居住者の求人募集を行う企業：30社（計画期間中の累計）

指標3 二地域居住者の地域コミュニティへの参加・協力：100名（計画期間中の延べ人数）

指標4 シェアハウスに転換する遊休宿泊施設の入居者：10名（計画期間中の累計）

3. 特定居住拠点施設の整備に関する事項

(1)特定居住拠点施設

No	拠点施設の区分	名称（施設の内容）	所在地	都市計画等の状況	整備内容	整備主体	整備期間
1	事務所	白馬ノルウェービレッジ （コワーキングスペース）	白馬村北城3476番地	用途地域なし	整備済み	白馬村	平成29年度完了
2	交流施設	スノーピーク ランドステーション白馬	白馬村大字北城5497番地	用途地域なし	整備済み	白馬村	令和2年度完了
3	交流施設	農業体験実習館	白馬村神城22870番地1	用途地域なし	未定	白馬村	未定
4	交流施設	白馬村子育て支援施設（仮）	白馬村北城6938番地	用途地域なし	新築	白馬村	令和7年度～令和9年度
5	一団地の住宅施設	白馬村シェアハウス（仮）	検討中	用途地域なし	改築	H2Innovator合	令和7年度

(2)用途特例適用要件に関する事項（特定行政庁の同意： 年 月 日）

- ・ 用途（施設の種類）

該当なし

- ・ エリア

該当なし

- ・ 市街地環境の悪化を防止するための措置

該当なし

(3)公的賃貸住宅等整備事業に関する事項

該当なし

4. 特定居住者の生活の利便性の向上又は就業の機会の創出に資するため必要な施設の整備に関する事項

(1) 関連施設

No	施設の用途・名称	所在地	都市計画等の状況	整備内容	整備主体	整備期間

(2) 用途特例適用要件に関する事項（特定行政庁の同意： 年 月 日）

- ・ 用途（施設の種類）

該当なし

- ・ エリア

該当なし

- ・ 市街地環境の悪化を防止するための措置

該当なし

5. 施設の整備に関する事業と一体となってその効果を一層高めるために必要な事業又は事務に関する事項

- 移住及び二地域居住希望者へのワンストップ相談窓口開設、SNS等を活用した情報提供
- 地域とつながるプラットフォームを活用した、住まい・なりわい・コミュニティの一元的な情報発信
- 北アルプス圏域5市町村による移住・定住施策の推進（情報発信・相談会の開催等）
- 二地域居住者の生活利便性向上のための、AIオンデマンドバス「ふれAI号」の運行
- 子育て支援施設の整備（令和7年度～令和10年度整備予定）
- 地域みらい留学と連携した白馬高校国際観光科の生徒の全国募集
- ファンコミュニティの創設と地域の課題と人材をマッチングする関係人口創出事業
- 空き地・空き家バンクの運営

6. 施設の整備に関する事業と拠点施設関連基盤施設整備事業との連携に関する事項

※都道府県が社会資本総合整備計画（広域的地域活性化基盤整備計画）により拠点施設関連基盤施設整備事業を実施する場合に記載。

計画の名称、計画の期間、交付対象、連携都道府県

7. その他

(1)都道府県知事への意見聴取：令和7年7月8日

(2)特定居住促進区域内の住民の意見を反映するために必要な措置に関する事項

白馬村第5次総合計画において、基本理念を「白馬の豊かさとは何か - 多様であることから交流し学びあい成長する村」と掲げ、移住者や二地域居住者等を受け入れ、様々な分野で関わっていくことを地域全体で取り組む方針を位置付けている。

令和6年度に無作為抽出により村民2,000人を対象に行った「まちづくり村民アンケート」において、以下の結果が得られている。

- ・「多様な人々の交流」の施策重要度は5段階で3.74である。
- ・「村民の役割として大切だと思うこと」として、「移住者や観光客を温かく迎えること」を選択した人が約30%存在する。
- ・白馬村を寛容な地域だと思う人が45.6%で、寛容だと思わない人（16.0%）に比べて約3倍に上る。

白馬村議会にて計画を説明し、意見を聴取・反映している。

(3)都市計画との調和に関する事項

白馬村都市計画マスタープランでは、「人々が自然と共生しみんなでつくる いつまでも住み続けられる ハートフル・エコシティ 白馬」を将来都市像と定め、すべての人々にとってより住みやすく、より快適に過ごすことができることをまちづくりの第一目標としている。

人口減少・少子高齢社会においても、将来にわたって持続可能な都市を目指すためにも、白馬村に住む人や訪れる人など多様な人々が主体的にまちづくりに参画する（みんなでつくる）ことを施策として掲げている。

具体的な取り組みとして、空き家や遊休施設の有効活用、地域コミュニティ存続のための支援、村民と白馬村を訪れる人の交流機会の提供等を挙げており、「住まい」「なりわい」「コミュニティ」の3つの要素で地域課題を解決しながら二地域居住を促進することで持続可能な地域づくりを目指す本計画と調和が図れている。